

1 実践内容

本校は、研究主題を「主体的に学び、高め合う子の育成」とし、今年度は、自分の考えをしっかりともち、進んで対話することを通して、考えを広げ深めていく姿を目指し、授業改善に取り組んでいる。本校児童は、活動後の感想発表の場では、ほとんどの子が意見や感想を述べるようになってきている。しかし、授業の中では、多様な考えが出ず、話し合いが活発に行われず内容が深まらなかったり、友達の意見をもとに自分の考えを再構築したりすることは、あまりできない。そこで、対話を通して、考えを広げるための授業づくりの実践を始めた。

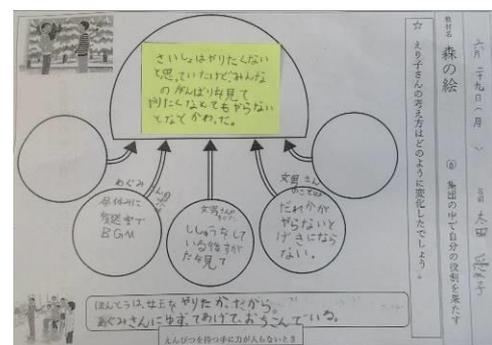
(1) 思考ツールの活用

今年度から道徳の授業で、思考ツールを活用している。自分の頭の中にある思いや考えを整理したり、グループや全体的話し合いで、友達の考えを可視化したりすることにより、新たな気づきが生まれたり考えを深めたりまとめたりできるようにと考えている。どの思考ツールを何のためにどの場面に取り入れるかなどをはっきりさせ、考えを広げ深める手立ての一つとして実践を続けたい。



(2) 自分の考えを表現する工夫

話し合いで考えを広げ深めるには、まず一人一人が自分の考えをもち、表現することが大切である。ねらいに沿った発問を工夫するとともに付箋やワークシート、ホワイトボードなどに考えを書く時間を確保し、話し合いにつなげていく。また、算数科では、「一人学び→学び合い」の流れで授業を行うとき、話し合いの場で自分の力で解決できたところまでを説明できるように、見やすいノートの書き方を指導している。



(3) 話し合いのルールと話型

少人数のため、挙手なしで気軽に意見交換をする場を設けたり、一人学び後のグループでの話し合いがスムーズに進むように学び合いカードを活用したりしている。



2 成果と課題

- 子供たちが話し合いの流れを理解し、自分の考えを話すことはできるようになった。
- 「学び合い」の中で友達の考えに反対したり意見することがなかなかできない。
- 話し合いの結果、一人の考えに決まってしまうことが多く、みんなの意見のよいところを集めてよりよい考えを作り出すというところまでは、まだできていない。学び合いの中に教師も加わり、話し合いが行き詰ったとき、助言していきたい。